

家庭訪問

用事があって家庭訪問する先生は、「普通の先生」
用事があっても電話で済ませるのは、「好ましくない先生」
用事があっても家庭に連絡しないのは、「よくない先生」
「よい先生」とは、用事がなくても家庭訪問する先生。

家庭訪問について

1. 目的 「保護者と子どもと教師がよい人間関係をつくる」

- ①子どもの通学の安全確保
 - ・通学路の安全把握
 - ・地理的位置の把握
 - ・保護者の確認（顔と声を覚える。）
- ②親の願いを聞いたり疑問に答えたりする。
 - ・学級経営方針、指導方針等
 - ・学校や学年全体に関わる問題は、即答を避ける。
 - ・子どもに対する保護者の考え方（しつけや教育）
- ③家庭環境の把握
 - ・家庭の経済状況
 - ・同居、家族構成
- ④問題点の把握
 - ・DV、不登校、いじめ等
- ⑤学校での様子や指導や成績等を保護者に報告する。

※年度当初の家庭訪問は、①②③が、主となる。1回の訪問ですべてを把握することはできない。

2. 留意点

- ①予想される問題事項は、学年で共通理解をしておく。
- ②学校での子どもの様子でよいところを告げてから話に入る。
- ③情報や秘密は厳守。
- ④聞き手にまわり、観察に重点を置く。話の内容だけでなく、言葉遣い、服装、におい、音などにも注意を払う。
- ⑤予備知識や資料には目を通しておく。**家庭環境調査表は、持参しない。**
- ⑥家庭内の秘密は、相手が話せば別だが、無理に聞きだそうとしない。
- ⑦他の家庭や子どもの批判や他の教師批判は絶対にしない。
- ⑧約束の時間は守る。
- ⑨話し相手によって、接し方や話し方をかえる。
- ⑩共働きや欠損家庭など留守になりやすい家庭との連携には、十分配慮する。
- ⑪**面接の間は、メモを取らない。**記録は、学校に帰ってからその日のうちにおこなう。